

注目の販売支援システム紹介

ソーラーエナジーソリューションズ「ソーラーマスター」

発売3カ月で20社が導入

現地調査なしで見積提示可能

訪販会社の提案力を強化する販売支援システム「ソーラーマスター」が注目を集めている。

航空写真や屋根図面を使用することで、現地調査をしなくても太陽光発電の見積書を作成できる。業務効率の改善や、営業力の底上げが期待できることから、今年2月の発売から約3カ月間で、訪販会社を中心に20社以上が導入した。

インターネットに接続できるノートパソコンを使用し、航空写真を使って屋根面積を測定したり、屋根の図面を取り込んだりすることで、現地調査を行わずとも精度の高い見積書が作れる。

国内外メーカー11社が販売しているパネルのサイズや発電効率が登録されており、設置するパネルを選択して、航空写真を画面上で屋根の設置面を枠取りすると、最も効率的に配置した場合の搭載枚数や予想発電量が自動的に算出される。国や地方自治体の補助金情報、地域ごとの日照量も登録されている。発電能力1kWあたりの設置価格を設定すれば、補助金を差し引いた設置費用が瞬時に計算される。年間の予想発電量や節約できる電気代、売電で得られる概算金額も表示

され、設置費用を何年で回収可能かを示すグラフが作成される。こうした情報がすべてA4サイズ1枚に表示される（写真）。

ソーラーマスターを販売しているのは、システム

の利用率は登録料の1万円と、2ライセンスの使用で1カ月あたり2万円。原則的に年間契約で、1ライセンス追加すると月々90

00円かかる。戸別訪問、テレ

アポ、催事で活躍

ソーラーマスターは戸

別訪問や催事販売、テレ

アポなどさまざまな営業

スタイルで活躍する。

催事販売の場合、来場

者にもその場で概算価格や

予想発電量を示すことが

可能。テレアポで販売する

場合なら、住所が分かれば



航空写真を使って作成した見積書。電気代削減効果などが一覧で表示される。

メールで送るといった活用方法も可能だ。

追加費用なしで

随時機能アップ

ソーラーマスターのデ

ータベースに登録されて

いる情報は日々更新され

ている。

ソフトをパソコンにイ

ンストールする方式では

なく、システムを利用す

る際にインターネットで

アクセスする、クラウド

コンピューティング方式

を採用しているためだ。

例えば、補助金の予算

を使い切った自治体があ

れば、自治体のホームページ

に掲載された時点で、ソーラーマスターに

も反映される。

利便性を高めるための

バージョンアップも随

時、無料で行っている。

電気代削減効果と売電

収入の合計金額で月々の

ローン返済を組んだ場合、何回で支払いが終了するのかをシミュレーションできる仕組みを、5月をメドに追加する予定。太陽光発電の費用対効果を一目瞭然にするためだ。